

農繁期 レポート

令和3年 6月号

栄ファーム

オーナー	栄運輸工業株式会社
水田面積	18.4アール
保証量	玄米 828kg
形態品種	特別栽培コシヒカリ



生産者 三上 惇二 (エコファームグループ代表)

例年より早い梅雨入りの発表の後も雨の降らない日が続いていましたが6月初旬になってようやく梅雨らしい天気となりました。山からの水も少なくなってきたところでしたのでちょうど良い恵の雨となりました。稲も気温・水温が高くなったことで 順調に株が大きく育ち、分ケツも好調です。今年からドローンによる除草剤散布を 始めました。人力よりもムラの無い定量散布になりました。

6月の作業内容と稲の成長

1. 除草剤まき (田んぼの中)

田植えをしてから1週間後は1回目の除草剤を散布します。田んぼの中に雑草が増えると、養分が取られ、風通しが悪くなり、また害虫も発生しやすくなります。翌日雨が降ってしまうとせっかくの除草剤も流れてしまうので天候も重要です。



2. 草刈り

極端ではなく、田植え～収穫までに使う時間の大半が畔(アゼ)の「草刈り」です。畔に生えた雑草を強力な薬を使って根まで枯らす事は簡単ですが、そうすると畔が弱くなり、水田が崩れる危険性と水田にしみ込み稲にも影響を与えます。



3. 草刈り (無線草刈りロボット)

エコファームHOSOYAグループでは無線で動く草刈り機を保有していることで、草刈り時間の大幅短縮および労力減少ができています。結果、平地より効率が悪い山間部でも大規模の作付け面積が現在対応できるようになっています。



4. 水の管理

6月が一番稲が育つ時です。平均水温が23～25℃で昼夜の寒暖差が大きいとより促進されます。毎日農家さんが田んぼの水を見に行くのは、水の深さを調整することで稲の温度を上げ下げしているからです。

